

結核感染第一類(處女地急性結核)ニ就テ (第一報)

醫學博士 有馬 賴吉

石原 巖

纒カニ四十二三年ノ前ニ過ギナイ結核菌發見モ、今日ニテハ可ナリニ古イコトデアアル。併シ、何時代カラ結核病ガ人類ノ間ニ存在シテ居ルカト云フコトニナルト、既ニ現ニ存在スル文字ノ歴史ヲ超越シテ居ル。更ニ何時ノ頃ニ人體ニ寄生スルヤウニナツタカ、人類ニ寄生スルニ至ル前ニ、若干ノ溫血動物ニ寄生シタカ、人類若クハ溫血動物ニ寄生スルニ至ル迄ハ何所ニ如何ニシテ生命ヲ保ツテ居タカ、如何ナル原生動物カラ別レテ現在吾々ノ知ルガ如キ微生物ニ進化シテ來タカ等トナルト茫漠トシテ星ノ世界(實ハ地球上有機生活ノ起原)ト其齡ヲ等シウスルガ如キ心地ガスル。

比較的手近カナ所デハ、何時代ニ日本ニ結核病ガ發生シ若クハ渡來シタカ、神武以前ノモノデアアルヤ、其後ノコトデアアルヤ、之モ現代人カラ觀テ既ニ餘計ナ穿鑿デアルト言ハ、謂ヘルガ、結核病ノ侵襲ヲ受ケザル人類社會ガ如何ニ平和ナ、幸福ナ、痛苦少ナキ社會デアアルカ、其ノ之アル社會ガ前者ニ較ベテ、如何ニ悲惨ナルモノデアアルカラ想フ時ハ、結核トイフモノ無カリケル時代、若クハ、之レ無キ土地等ノコトヲ考ヘズニ居ラレナイ。

吾々ガ平生結核ニ關シテ語ルトキ一モ二モナク結核ハ國民病ナリト言ヒ、人類若クハ世界ノ大勢ニ關係アル國民ハ皆、殘ラズ結核ノ被害ニ苦シミツ、アルモノ、如ク考ヘテ居ル。ガ併シ、少シク深く立チ入ツテ見レバ、事實ハ必ズシモサウデハ無イ。殊ニ十九世紀ノ文明ガ尙ホ今日ノ如ク世界中ヲ風靡セザリケル四、五十年前迄ハ結核病ハ歐米ノ文明地域、亞細亞、支那及ビ日本ノ、之モ僅少ナ、併シ重要ニシテ人口稠密ナル、文明地域ニ限ラレテアツタモノデアツタニ違ナイ。其外ノ地表ノ陸地ノ大部分ハ、人類ノ棲存ハアリタレドモ結核病ハ存在シナカツタ、或ハ結核ガ存在シタルコトガアツタカモ知レナイガ、現代人ノ印象ニハ結核ハ無イト思ハレテ居ル。斯ル土地ノコトヲ私ハ數年來『結核處女地』ト唱

ヘテ居ル。又此處女地ニ對シテ、記錄ニモ、現代人ノ記憶ニモ既ニ長ク結核病ノ存在ノ留メラレテアル土地ヲ、私ハ今後前者ニ對シテ『結核馴地』ト呼バウト思フ。

何處ニ處女地トカ馴地トカ云フモノヲ區別スル必要ガアルカトイフニ。之ハ結核ノ疫學的觀察ヲナスニモ、結核ノ病型ヲ討究シテ其本態ヲ發明スルタメニモ、ソレ等ニヨリテ結核ノ豫防治療ノ根本策ヲ樹テルガタメニモ極メテ必要ナコトデアル。此種ノ觀察ト研究ガ今少シク早く出來テ居タラバ、今日ノ結核知識ハヨリ遙カニ進歩シテ居ルニ相違ナイノデアルガ、不幸ニシテ十九世紀末カラ勃興シタ現在ノ歐洲醫學ハ之ヲ區別シテ觀察スル材料ヲ有セズ、ソレヲ直譯的ニ輸入シタ我邦ノ醫學モ亦俱ニ之ガ區別ヲ立テナカツタノデアル。歐洲殊ニ其中部、南部及ビ英蘭ニテハ嶮岨ナル高山ガ少ナク、昔未ダ交通機關ノ發達セザリケル時代ニテモ國內交通ガ比較的容易デ、都鄙ノ生活狀態ニ共通ノ點ガ多く、兩者ノ交渉ガ從ツテ頻繁デアツタ所カラ、國內結核蔓延ノ狀況ガ早クモ既ニ略々平均サレテアツタモノデアル。即チ、近世文明ノ發祥地タル歐洲ノ大部分ハ近世醫學ノ發達ノ前ニ於テ蚤ク既ニ結核ノ馴地デアツタノデアル。若クハ人文ノ發達ガ主トシテ平地ニ於テ形成セラレ、結核病モ亦隨ツテ平地ニ多く、醫學ノ研究モ觀察モ亦重ニ都會地ヲ中心トシテ爲サレタルガ爲メニ、醫學全體ガ特殊ノ風土病ノ如キハ別トシテ都會醫學ナリト謂ツテ然ルベキデアツテ、結核病ノ觀察ヤ、ソレカラ出デタル記載モ亦都會地ヲ中心トシタル結核病デアアル。併シナガラ、斯ルハ實ニ誤リタル偏倚的觀察デアツテソレガタメニ結核病ノ本態ヲ大觀スルコトノ出來ナカツタコトハ遺憾ナガラ亦已ムヲ得ナイ仕誼デアツタ。併シ、前世紀末カラノ交通機關ノ發達ニ連レテ、ソレマデ文明未開ノ地ガ、白人種ニヨツテ征服サレ、開發サル、ニ追ンデ、結核病ニモ所謂處女地ガアリ、處女地ノ結核病ハ從來彼等ノ視聽ニ入りタル馴地ノ結核病トハ異ナルモノデアアルコトニ想到著眼スルニ至ツタ。例之バ、最初ノアフリカ探險隊ノ記錄デハ、アフリカ内地ニハ結核ハ存在セズ、アフリカ土人ハ即チ結核ニ免疫デアルトセラレタガ、豈圖ンヤ、ソレハ彼等ノ中ノ醫學者ノ頭腦ニ『人類ノ棲息スル所必ズ結核アリ』トイフ先入主觀ガアツタガタメノ誤解デアツテ、其後ソレ等ノ土地ニ多くノ白人ガ侵入スルニ及ビテハ土人等ハ皆ニ結核ニハ免疫デハナイノミナラズ寧ロ、却テ甚ダシク結核ニ敏感デソノ機會ニ遭ヘバ極メテ容易ニ之ニ感染シ、且

其經過ガ甚ダ急劇デアルコト、ソレ等土人ノ歐洲文明ノ土地ニ入り込ミ來ル者ハ亦屢々急性惡性ノ結核ニ罹患スルコト等ガ分明トナルニ至ツタ。ソレト同様ノ事實ハアメリカノ土人ヤ、トルコノ内地其他到ル所ノ結核處女地ニ於テ目撃セラレ、少シク廣ク文獻ヲ涉獵スレバ近來這種ノ記載ハ決シテ乏クナイ。近イ所デ、アメリカ印度人ノ結核死數ニ就テ次ノ如キ報告ガアル。

「ナショナル、チュバクロージス、アソシエーション」ハ一九二一年ニ北米合衆國ノアメリカ印度人間ニ於ケル結核調査會ヲ起シテ調査中デアツタガ、一昨一九二三年ニ至ツテ、其第一回報告ヲ發行シタ。ソレニヨルト、彼等ノ結核死亡率ノ最高點ハ一九一三年デアツテ、人口千ニ付三二・二四人ト云フ多數(一九一〇年紐育市ニ於ケル結核死亡率ハ人口十萬ニ對シテ二四〇人)ニ上リ、一九二〇年ニハ漸減シテ人口千ニ對シテ二二・三三人トナツタ。前世紀マデハ彼等仲間ノ結核數ハ白人種ノヨリモ極メテ稀少デアツタガ、交通ノ開發ト俱ニ急劇ニ増加スルニ至ツタ。現ニ合衆國ニ居ル印度人等ノ總數ハ三三六、三三七人デアルガ、ソノ一般生活狀態ガ非常ニ低級デ、榮養モ亦太ダ不良デアル。從テ彼等ノ結核豫防ヲ實現センニハ先ヅ以テ其社會狀態ヲ改良スルコトゾ急務デアル。(N. T. Tubc. Btl. 39, 11. 3)

此事實ハ亦明カニアメリカ土人ガ白人種等ヨリモ結核ニ敏感デ、彼等ノ仲間ニ結核ノ蔓延特ニ甚シキコトヲ語ルモノデアル。兎ニ角、彼等ガ白人種ト接スルコト既ニ數世紀ナルニ至ツテモ、彼等ノ結核ハ尙ホ未ダ處女地的性質ヲ保ツテ居リ、白人ノソレト異ナルモノデアルヲ知ルニ足リ、ソレノ追證ハ他ニモ決シテ少ナクハナイ、其土人間ニ於ケル結核蔓延ノ劇シキコトヲ、不良ナル生活狀態ヤラ、衛生的知識ノ缺乏ニノミ歸スルハ報告者ノ主我的獨斷デアル(後段參照)。

序ニ今一ツノ珍種ヲ擧ゲテ見ル、Georg Heinrichノ著「エスキモス、レーベン」ナル書物ノ最後ノ章ノ一節デアツテ、獨逸ノ結核雜誌ニ抄録サレタ所デアル。曰ク、

『歐洲ノ文化ナルモノガ種々様々ナル形デ ソレ以前ハ健康ト幸福ニ充タサレタリケル彼等自然民族ニ與ヘラレタガ、ソレガ果シテ神ノオ思召ト云フベキモノデアツタラウカ、ソノ種々ナルオ土産ノ中ニ結核ガアツタコトハ尙更デアアルマイカ。グリーンランドノ「エスキモー」族間ニ於ケル結核ハ最近數年間ニ燎原ノ火ノ如ク蔓延シ、ソノ根原ニ喰ヒ入り、

住民ノ大多數ハ皆結核ノ侵ス所トナツテソノ絶滅モ早ヤ遠キニアラズト思ハレル。歐洲人ガ結核ヲグリーンランドニ輸入シタル確證ハ縦シ之レナシトスルモ、事實ハ正ニソレニ相違ナイ。雷ニ結核ノミナラズ、他ノ疾病ニ就テモ、歐洲人ガ彼等ノ生活全體ヲ脅カシタルコトニ依テ、ソノ責任ハ吾等歐人ニ在ルト謂ハテバナラス。結核蔓延ノ狀況ヲ語ルニ、患者ノ數ヲ算フルヨリモ、健康者ノ數ヲ數フル方ガ早イコトハ確實デアル。疾病ノ經過ハ通例非常ニ速カデ、發病シタラバ最期デ、策ノ施スベキハ無イ、ソレガタメニ此矮小人種ノ意氣沮喪ノ程度モ筆舌ノ及ブ所デナイ。曾テハ天然痘ヲモ亦歐人ガグリーンランドニ輸入シテ、極メテ多數ノ犠牲ヲ出サシメタガ、現今ノ結核ノ犠牲ハ彼ニモ優ル一大脅威デア
ル。

コンナ次第デ、所謂處女地ノ結核病ハ從來吾々ノ知レル範圍ノ結核トハ其蔓延ノ速度竝ニ病型ニ於テ著シク異ナル所ノモノデアルガ、是等世界各地ノ處女地人類ヲ驅リ集メテ處女地結核病ノ一大動物試験ヲ行ツタト謂フベキモノハ過ル世界大戰デアツタ。

歐洲ノ戰場ニ於テ白人等ガ黑人若クハ東洋ノ印度兵ヲ彼等ノ掩護障トシテ常ニ第一線ニ立タシメタトカ云フ人道上ノ問題ハ姑ラク措ク、唯ダ南阿ノ黑人諸民族ノ軍隊ヤ、アメリカ黑人團ノ兵卒等ガ戰場ニ於テ酷シク結核ノ襲撃ヲ蒙リ、殊ニ急性結核ニ殞レタコトハ著明ナル事實トシテ屢々記載サレタ所デアル。

即チ處女地人類ガ結核ニ對シテ太ダシク敏感デアルコトハ彼ノ猿猴ヤ、「モルモット」ガ結核ニ對シテ非常ニ感染シ易ク、且ツ感染シテ急性ノ經過ヲ以テ斃レルト異ナル所ハ無イト惟ハレル。

翻ツテ、我邦ニ於ケル結核蔓延ノ狀況ヲ稽フルニ、此處女地、馴地ノ關係ニ於テ、實ニ世界結核ノ縮圖トモ謂フベキモノガアル。

言フマデモナク我島帝國ハ四方環海デアル上ニ、山岳起伏シテ全國ヲ掩ヒ、一步ヲ右スレバ直ニ海ニ入ルベク、左スレバ亦直ニ山巔ニ達スルコトガ出來ル。二三十年ノ前マデハ、其交通ノ纜カニ絶エザル所ハ二三ノ幹道ニ限ラレ、馬背、人脚ノ外ハ交通機關ガ無カツタカラ、人文ノ發達スル所ハ極メテ一小部分ノ土地ヲ占ムル、所謂城下ト驛次トニノミ限ラル

ルノ概ガアツタ。結核ノ馴地ガ主トシテ是等ノ部分ニノミ存在シタコトハ種々ノ事情カラ推シテ疑フベキ餘地ガ無イ。即チ五十年ノ前マデハ山間ノ農村、沿海ノ漁邑等、我國民ノ最大多數ノ住フ所ハ皆結核處女地デアツタト謂ヘル。而シテ我邦ニ於ケル此處女地、馴地ノ分布關係ハ幸ニシテ極メテ最近マデ上記ノ狀態ガ保存サレテアツタモノト惟ハレル。然ルニ所謂文明ノ風ガ全國ヲ吹キ靡カセタ明治以來ノ狀態ハ果シテ如何デアルカト云フニ、少シク極端ナル比喩ヲ用フレバ、前記ノグリーンランドノ「エスキモー」生活ノ結核ニ就テ、Lundh が揚ゲタル人道ノ叫ビハ、事ニヨルト亦タ直チニ吾等ガ頭上ノ問題デアルカモ知レナイノデアアル。何ヲ以テ今頃斯ル忌ハシキ言葉ヲ發スルノデアルカ。乞フ、直チニ吾等ノ調査セル事實ニ就テ御覽ヲ願ハウ。

第一例(有馬調査)。

、戸主、嘉永三年十一月二十二日生、明治二十三年三月三十日(當時四十歲)死亡、病名癆咳(第一死亡例)。

同人妻、文久二年八月二日生、明治二十三年十一月三十日死亡(當時二十九歲)、病名同前(第二死亡例)。

同 長男、明治二十二年十一月四日生、明治二十六年四月四日死亡(當時四歲)、病名、腺病及脹滿(實ハ結核性腹膜炎)(第三死亡例)。

同 長女、明治十二年十二月八日生、明治三十六年八月二十九日死亡(當時二十四歲)。病名、肺結核(第四死亡例)。

同 次女、明治十七年三月二日生、大正元年八月二十七日死亡(當時二十二歲)、病名、肺結核(第五死亡例)。

同 三女、明治十九年三月三十日生、健存。

此記載ハ唯是ノミニ止メヤウ。何故ナレバ此事實ハ記載ノ如ク而カク舊キ事ニ屬シ、詳細ヲ調査スルニ由ナキ今日強テ其詳ヲ盡サントスレバ勢ヒ、想像ヲ加フルコトニナリ、事實ノ真相ヲ遠カル虞ガアルカラデアアル。但シ此一小家族結核ノ流行ハ有馬自身ノ幼時カラ最近迄ニ目撃シタ出來事デアツテ、其村、其聯合村竝ニ其近郷一帶ハ山陰ノ僻隅ニ位スル所謂結核處女地デアリ、此家族結核ノ一例以外ニハ其前ニモ亦其後ニモ未ダ曾テ結核ノ存在ヲ認メラレナイ所デアアル。

如何ニシテ上記ノ明治二十二年ノ交此寒村ノ結核處女地ニ突如トシテ斯ル慘劇ガ演ゼラル、ノ始ヲナシタカハ今日ニテハ最早明カデハナイガ、當時此家屋ガ新世帯ノ經濟緩和策トシテ、同村内唯一ノ行路ノ旅人宿泊所デアリ、冬季ノ如キハ往々ニシテ數旬ニ互ツテ起臥飲食ヲ俱ニスル宿泊人ノアツタコトニ其因ヲ發スルモノト見ルノ外ハ無イ。

此家屋内ノ感染狀態竝ニソレヨリ歸納サレル患者各個ノ結核傳染源トシテノ危険性等ニ就テハ、後段改メテ説カウト思フ。

第二例(有馬調査)。

農、戸主、慶應三年生、健存。

同人妻、明治四年生、生來健全、大正六年「クローブ」性肺炎ヲ以テ死亡ス。一男二女アリ。

長男、明治二十三年一月生、健存。大正六年迎妻、二女ヲ産マシメ、皆健全。

長女、明治二十七年生、大正九年秋嫁シテ北海道へ行ツタガ、其翌十年十一月其夫肺結核ニ斃レタルヲ以テ(此人ノ發病ハ即今詳カデナイ、現存スル家ノ人々ノ語ル所ニヨルト、九年秋結婚ノ當時ハ勿論健全デアツタガ、翌十年四月ノ交デアツタラシイ、此人モ極メテ急劇ナル經過ヲ以テ死亡シタモノデアアル。北海道ハ此型ガ非常ニ多イトノコトデアアル)、其年十二月一旦生家ニ歸還シタガ、歸郷後間モナク、身體異和ヲ覺エ、即チ、其夫ノ推定發病カラシテ七乃至八ヶ月以内、夫ノ死亡カラシテ一ヶ月以内ニ蚤クモ發病スルニ至ツタモノデアアル。其後ノ經過ハ急劇ナル滲出性肺結核デアツテ、發病ヨリ七ヶ月目ノ十一年六月十二日死亡スルニ至ツタ。有馬ハ此患者ヲ診察スルノ機會ハ無カツタガ、結核デアツタコトニ間違ハナイ。

二女、明治三十五年五月生。姉ノ歸郷以來死亡ニ至ルマデ同室ニ起臥シ、姉ガ褥中ノ人トナツテカラハ獨リ、専ラ看病ニ從事シタ。父ナルモ亦看病シタガ、別室ニ臥スルヲ常トシタ。他ノ家族、殊ニ長男ノ妻ト子供ハ決シテ此病人ニ接スルコトハ無カツタトイフ、此家族ハ其時既ニ之レガ危険ヲ熟知シテ居タカラシテ、事實サウデアツタラシイ。而シテ此一家ガ既ニ傳染ノ危険ヲ豫知シテ居タコト、從ツテ之ニ接スルコトヲ可及的制限シタコトガ彼等各自ノ其後ノ

運命ニ至大ノ關係ヲ有スルコトハ結核感染ノ分類上カラ見テ最モ重要ナルコトデアルカラ、此事ヲ特ニ此所デ記載スル次第デアル。

叔テ此二女ノハ姉ノ病氣ヲ、殊ニ其起居不如意ニ陥ツタ最後ノ二ヶ月餘ハ殆ンド晝夜一手デ看護シタモノデアツタ。而シテ姉ハ前記ノ通り十一年六月ニ死亡シタガ、本人ハ其年ノ十月ニ結婚シタ。所ガ、此人ハ其結婚ノ月カラ月經ガ無クナツタ、而シテ衰弱ノ徴ガアツタガ、妊娠デアラウト思ツテ敢テ意ニ介シナカツタガ、十二月首ニ至ツテ一日數次ノ腹痛下痢ト俱ニ急劇ニ高度ノ貧血状態ヲ現ハシ來ツテ、病褥ノ身トナツタ。有馬ノ此病人ヲ診察シタルハ其十二月中旬デアツタガ、輕少ノ腹水ヲ有スル輕キ腹膜炎ト頑固ナル下痢デアツテ、糞便中ニハ結核菌ヲ證明シタ。肺ハ殆ンド故障ヲ認メズ、咳嗽モ喀痰モ皆無デアツタ。最モ著明ナル症状ハ熱ト最モ高度ナル貧血ト之ニ伴フ極度ノ衰弱デ、皮膚ハ乾燥シテ皺襞ヲ生ズルニ至ツテ居ツタ。慰安ノタメニ(實ハ有馬自身ノ血縁者デアツテ、有馬等ノ免疫研究ヲ知ツテ居ルガタメニ)其月カラ翌一月ニカケテA Oヲ三回接種シタガ、纔カニ一時的ニ熱ノ輕減ヲ見セタノミニシテ他ハ寸效モ無ク、大正十二年二月二十三日、發病ヨリ僅カニ五ヶ月目ニシテ死亡シタ。

此病人ノ看病ハ父親タルガ、晝夜附切リニテ、一切餘人ノ手ヲ煩ハスコトナシニ仕終ウセタ。此病人ハ幸ニモ死ニ至ルマデ肺ニ故障ヲ起サズ、咳嗽モ喀痰モ無カツタカラ、他ニ危險ヲ及ボスコトハ無カツタ筈デアツタガ、此家族ハ既ニ結核ヲ魔神ノ如ク怖レテ居タモノデアツタカラ、父親以外ノ者ハ殆ンド病人ノ顔ヲサヘ見ズニ終ツタモノデアアル。

(以下次號)